

論理国語	単位数	4 単位	学科・学年・学級	
------	-----	------	----------	--

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 使用教科書など

使用教科書	東京書籍「精選論理国語」(論国 702)
副教材など	「精選論理国語 学習課題ノート」(準拠ノート) / 「新総合図説国語」 / 「ジャンプアップ高校漢字問題集 改訂版」 / 「常用漢字の標準演習 改訂版」 / その他、D マークコンテンツ(教科書)、指導用 DVD-ROM 収録の補助資料など

3 評価の3観点と学習指導要領との対応

平成 30 年告示の学習指導要領では、評価の観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つとなった。

学習指導要領との対応は以下のとおりである。

- ・「知識・技能」：学習指導要領の〔知識及び技能〕について指導したことを評価する。
- ・「思考・判断・表現」：学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕について指導したことを評価する。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」：学習指導要領に直接該当する項目はないが、次の2つの側面を評価することが求められている。
 - ①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする側面。
 - ②①の粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとする側面。

4 「年間指導計画例」の見方

本資料の各項目の概要は、以下のとおりです。

《薄いグレーの見出し》

- ・学期と各編の単元番号と名称，配当月を示した。

《領域・教材名・ページ数・配当時数》

- ・領域（書く／読む），教材名，ページ数，配当時数を示した。

《学習指導要領との対応》

- ・学習指導要領の指導事項や言語活動例との対応を示した。

記号の意味

[知技] …… 「知識及び技能」の指導事項

[思判表] …… 「思考力，判断力，表現力等」の指導事項

Ⓔ …… 「思考力，判断力，表現力等」の言語活動例

《学習目標》

- ・附録「この教科書で学ぶこと」に掲載の学習目標を示した。

《学習活動例》

- ・配当時数の中で考えられる学習活動の例を示した。

記号の説明

* …… 指導上の留意点や別案

D …… D マークコンテンツの活用

《評価規準例》

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点による評価規準例を示した。
- ・「知識・技能」の評価規準例は，各教材で育成を目指す資質・能力に該当する学習指導要領の〔知識及び技能〕の指導事項の文言をそのまま用いて，文末を「～している。」とした。
- ・「思考・判断・表現」の評価規準例は，各教材で育成を目指す資質・能力に該当する学習指導要領の〔思考力，判断力，表現力等〕の指導事項の文言をそのまま用いて，冒頭を「（領域名）において，」として領域を明示し，更に文末を「～している。」とした。
- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準例は，扱っている全ての指導事項について設定した。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は，次の4つの内容を全て含め，各教材の目標や学習内容等に応じて，その組み合わせを工夫しながら設定している。また，文末

は「～しようとしている。」とした。

- ①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
- ②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉
- ③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
- ④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

記号の意味

[知技] …… 「知識・技能」の評価規準例

[思判表] … 「思考・判断・表現」の評価規準例

[主] …… 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準例

◆年間指導計画例

領域・教材名 ページ数・配当時数	学習指導要領と の対応	学習目標	学習活動例 (*は指導上の留意点など)	評価規準例
■ 1 学期				
I 部 1 発見への誘い (4 月)				
読む いつもそばには本があ った P 8 2 時間	[知技] (1)ア, イ, ウ(3)ア [思判表] 読む こと(1)ア, エ, カ (活) 読むこと(2) ア	<ul style="list-style-type: none"> 読書の意義について筆者の主張を読み取り, 自分に引き寄せて考える。 	<p><第 1 時></p> <ol style="list-style-type: none"> 筆者にとっての読書の意義について, 「欲望」という観点に着目しながら, 本文を通読する。(手引き 1) 各段落の中心文を意識しながら, 意味段落に分ける。その作業中に, 分かりづらいつと感じたところを質問の形にする。(論理の力) プラトンの紹介するパラドックスが提起する問題を捉え, 「読書の実践」との関係を読み取る。(手引き 2) 筆者による「欲望」と「快楽」の定義をつかみ, 読書中の状態との関連性を読み取る。(手引き 3) <p><第 2 時></p> <ol style="list-style-type: none"> 「エロース」の意味をつかみ, 読書における「エロース」について捉える。(手引き 4) 「ペニアーの状態」から「欲望のプロセス」に至る方法を読み取り, 読書についての筆者の主張をまとめる。(手引き 5) 筆者の語る哲学的視点を踏まえたうえで, 自分にとっての「読書」の意義について考え, 発表する。(言語活動) 	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には, 言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において, 文章の種類を踏まえて, 内容や構成, 論理の展開などを的確に捉え, 論点を明確にしながらか要旨を把握している。 「読むこと」において, 文章の構成や論理の展開, 表現の仕方について, 書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 「読むこと」において, 人間, 社会, 自然などについて, 文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて, 新たな観点から自分の考えを深めている。 <p>[主] 粘り強く哲学的視점에立った語句の意味や筆者の思考の筋道をつかみ, 今までの学習を生かして自己の知識や読書経験と関連付けて, 「読書」について自分の意見をまとめ, 発表しようとしている。</p>

<p>読む ミロのヴィーナス P14</p> <p>■論理の力を鍛えよう P21 2時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読む こと(1)ア, エ</p> <p>[知技] (2)ア [思判表] 読む こと(1)エ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体例に注目して筆者の主張を理解し, 芸術の見方について考える。 ・書かれている内容を理解し, 論理的に考えることの意義を知る。 	<p><第1時></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 取り上げられている事柄や問題に注意して本文を通読し, 全体の構成を捉える。(手引き1) 2 第一段より, ミロのヴィーナスが魅惑的である理由は両腕を失っていることにあるという筆者の考えを大まかにつかむ。 3 第一段の抽象的語句や逆説的, 比喩的表現の具体的な内容をつかみ, 説明する。(手引き2-1・3-1・3-2) 4 ミロのヴィーナスの魅惑について述べた第一段の要旨を三つの形式段落の関係に留意してまとめる。 5 ミロのヴィーナスの復元案についての考えを, 「表現の次元」ということに着目して読み取る。(手引き3-3) <p><第2時></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ミロのヴィーナスの復元案について述べた第二段の要旨を, 二つの形式段落の関係に留意してまとめる。 2 第三段の重要な語句の意味をつかみ, 二つの形式段落の関係に留意して内容を読み取る。(手引き2-2) 3 「失われたものが両腕でなければならない」理由を, 手の持つ意味と両腕の欠落との関係からまとめる。(手引き4) 4 「論理的」とはどういうことかに注意しながら, 「論理の力を鍛えよう」を通読する。(論理の力を鍛えよう) 5 「論理的な文章」の構造を学ぶ重要性をつかみ, 社会生活とつなげて考える。 6 「譲歩」を用いた接続表現について, 「つなげる力」(P137) や「評論読解へのアプローチ 表現編」(P365) を参考にしながら, 本文から抽出し, その効果や意図を読み取る。(論理の力) 	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には, 言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において, 文章の種類を踏まえて, 内容や構成, 論理の展開などを的確に捉え, 論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において, 文章の構成や論理の展開, 表現の仕方について, 書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 <p>[主] 進んで芸術における具体と抽象の関係性や, 筆者の論の進め方を捉え, 学習課題に沿って見えないものへと思考を広げる, 芸術に対する見方を深めようとしている。</p>
--	--	--	---	--

<p>読む 【論理の力】 論理とは何か P134 1時間</p>	<p>[知技] (2)ア, イ, ウ [思判表] 読む こと(1)ウ, エ</p>	<p>・書かれている内容を理解し、「論理的」とはどういうことかを学ぶ。</p>	<p><第1時> 1 狭い意味での論理について, 【例1】から「演繹」という推論の仕方を理解する。 2 広い意味での論理について, 【問1】の文章から考え, 「論理的」であることの意味を解説とともに確認する。</p>	<p>[知技] ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。 ・推論の仕方について理解を深め使っている。 [思判表] ・「読むこと」において, 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し, 文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 ・「読むこと」において, 文章の構成や論理の展開, 表現の仕方について, 書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 [主] 進んで演繹的な推論について理解し, 学習課題に沿って広い意味での「論理」における言葉の関連性や文章構造について捉えようとしている。</p>
--	---	---	--	--

I部 2 言語と認識 (4~7月)

<p>読む 相手依存の自己規定 P24 2時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読む こと(1)ア, エ, キ ㊦ 読むこと(2) オ</p>	<p>・具体的な事例と筆者の意見の関係に注意して読み, 言語と自我の構造について考える。</p>	<p><第1時> 1 「日本人らしさ」から何を連想するか, 自分の経験などをもとに意見を出し合う。 2 本文を通読し, 各段の概要をまとめ, 全体の構成を捉える。(手引き1) 3 第一段から日本の学生とアメリカの学生の考え方の違いを読み取る。 4 第二段から日本人の言動の傾向をまとめ, 日本人の自我の構造に関する筆者の考えを正確に読み取る。 5 「質問する力」(P150)にある, 「情報の問い」「意味の問い」「論証の問い」の三つの観点から質問を考える。(論理の力) <第2時></p>	<p>[知技] ・言葉には, 言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において, 文章の種類を踏まえて, 内容や構成, 論理の展開などを的確に捉え, 論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において, 文章の構成や論理の展開, 表現の仕方について, 書き手の意図との関係において多</p>
---	--	--	--	--

			<p>1 日本語における「相手および自分を示す言葉」の使われ方を整理し、日本人の自己把握の在り方の特色を理解する。(手引き 2-1・3)</p> <p>2 日本語の「相対的な自己表現の言語習慣」と「日本人の自我の構造」とのつながりを確認する。(手引き 2-2)</p> <p>3 日本人の自我の構造が、第三段の第三節で紹介されている場面や現象とどのように関連しているかについて、欧米人の場合と比較しながらまとめる。(手引き 2-3・2-4・4)</p> <p>4 自分や身近な人たちの用いている一人称代名詞・二人称代名詞の例を調べ、それが自己把握の仕方とどのように関わっているかをまとめ、発表する。(言語活動 1)</p>	<p>面的・多角的な視点から評価している。</p> <p>・「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>【主】積極的に筆者の意見と具体例の関連性を理解し、学習の見通しをもって調べた身近な例を整理・分析して自己把握についての考えをまとめ、他者に伝えようとしている。</p>
<p>読む</p> <p>【論理の力】 質問する力</p> <p>P 150 2 時間</p>	<p>【知技】 (2)ア, ウ 【思判表】 読むこと(1)エ, カ</p>	<p>・ 質問の意義や種類を学び、よい質問をする力を養う。</p>	<p><第 1 時></p> <p>1 質問力を鍛える重要性和効能を、「読む力・聞く力」「書く力・話す力」「議論する力」の三つのポイントとのつながりから理解する。</p> <p>2 「情報の問い」「意味の問い」「論証の問い」という三種類の質問を理解し、物事に対する姿勢や心がけとの関連性を捉える。また、【問 8】の発言に対して、観点を変えた質問を考え、その解説から質問の三つの種類についての理解を深める。</p> <p><第 2 時></p> <p>1 質問のよし悪しについて、【問 9】の文章から考え、論理的な文章における鋭い質問とは何かについて理解を深める。</p>	<p>【知技】</p> <p>・ 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。</p> <p>・ 推論の仕方について理解を深め使っている。</p> <p>【思判表】</p> <p>・ 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。</p> <p>・ 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。</p> <p>【主】粘り強く論理的な思考力と質問する力の関連性を捉え、学習課題に沿って論理的な文章におけるよりよい質問に対する考えを深めようとしている。</p>
<p>読む</p>	<p>【知技】 (1)ア,</p>	<p>・ 本文中の二つの課</p>	<p><第 1 時></p>	<p>【知技】</p>

<p>科学的「発見」とは P34 2時間</p>	<p>イ, ウ 【思判表】読む こと(1)イ, カ</p>	<p>題を迫体験して読み, 科学的視点の持ち方とその意義を理解する。</p>	<p>1 「図1」と「図3」が何に見えるかを考えながら本文を通読する。(手引き1) 2 「事実を観察するということは, それほど単純ではない。」という筆者の考えを理解する。 3 第一段の「事実を観察するということは, それほど単純ではない。」という考えの根拠を, 第二段から理解する。(手引き2) 4 第三段から, 「信じられないという表情から驚きの表情に変わってくる」理由を理解する。(手引き3) 5 『『見ることは解釈することだ。』』の意味するところを理解する。(手引き4) <第2時> 1 「要約する力」(P146)を参考にしながら, 本文の中心的な「問い」と「主張」をまとめる。(論理の力)</p>	<p>・言葉には, 言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において, 文章の種類を踏まえて, 資料との関係を把握し, 内容や構成を的確に捉えている。 ・「読むこと」において, 人間, 社会, 自然などについて, 文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて, 新たな観点から自分の考えを深めている。 【主】 進んで中心的主張と事例の関係, 「問い」と「主張」という文章の構造を理解し, 学習課題に沿って科学的視点に立った, ものの見方や考え方を培おうとしている。</p>
<p>読む 【論理の力】 要約する力 P146 2時間</p>	<p>【知技】(2)ア, イ 【思判表】読む こと(1)ア, エ</p>	<p>・「幹」「枝葉」「根」という文章の構造を理解し, 適切に要約する力を養う。</p>	<p><第1時> 1 文章の「幹」(中心的主張)と, 「枝葉」(読ませる工夫・分かりやすくする工夫・根拠を示す「太い枝」という構造を理解する。 2 文章を「根」(問い)と答えの構造を持つものと捉えることを理解し, 【問7】の要約作業を通して, 文章構造への理解を深める。 <第2時> 1 「要約するための五つのステップ」を読み, 要約する手順とポイントを理解する。</p>	<p>【知技】 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。 【思判表】 ・「読むこと」において, 文章の種類を踏まえて, 内容や構成, 論理の展開などを的確に捉え, 論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において, 文章の構成や論理の展開, 表現の仕方について, 書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 【主】 進んで論理的な文章の構造を理解し, 学習課題に</p>

				沿って、中心的主張を捉えた要約の方法を理解しようとしている。
<p>書く</p> <p>【探究編】 資料を整理し、テーマを吟味する</p> <p>P 284</p> <p>■ 探究学習へのアプローチ</p> <p>P 314 11 時間</p>	<p>[知技] (2)ア, イ</p> <p>[思判表] 書くこと(1)ア, エ, オ</p> <p>㊦ 書くこと(2)ア</p> <p>[知技] (1)ア</p> <p>[思判表] 書くこと(1)ア</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料を集めてさまざまな観点から整理し、テーマを吟味する。 探究学習の概要を理解する。 	<p><第1時></p> <p>1 「探究学習へのアプローチ」を通読して、四つの学習ステップの流れと、各ポイントを確認し、「探究学習」への理解を深める。(探究学習へのアプローチ)</p> <p>2 「学習の流れ」を読み、活動のポイントの見通しを持つ。「探究学習」の四つのステップのうち、「情報の収集」と「整理・分析」を実践して、その手順や方法を理解し、テーマを吟味するという中心課題を捉える。</p> <p><第2・3時></p> <p>1 「課題」の中から一つを選ぶ。②を選んだときには、新聞・テレビのニュースなどから、興味・関心のある社会的な問題を書き出し、仮テーマを決める。</p> <p>*仮テーマを決める際は、身近で具体的な問い(課題)を作って、テーマが大きすぎないように内容を絞ったり、一義的ではなく立場による解釈の多様性があるものを選んだりするよう留意する。</p> <p>2 「活動のポイント」1を参考に資料収集の方法と資料の信頼性を見極めるの大切さを理解し、仮テーマに沿って、図書館のデータベースやインターネットなどを活用して資料を探す。</p> <p>*資料を探す際は、やみくもに大量の資料を収集することのないよう、問い(課題)や目的と照らし合わせて、あらかじめどのような資料が必要かの目安を立てるとよい。</p> <p><第4～6時></p> <p>1 「活動のポイント」2・3にある「裁判員制度の是非」の場合から、資料を整理する観点と、表にまとめる意義を理解する。</p> <p>2 「情報整理のポイント」の五つの観点に沿って、集め</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」において、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。 「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。 「書くこと」において、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫している。 <p>[主] 積極的に探究学習における資料の収集・整理の方法を理解し、学習の見通しをもって収集した資料の論点を整理してテーマを見直し、適切なテーマを設定しようとしている。</p>

			<p>た資料を整理する。「書き手の立場」「内容」「文章の形式等」「発表された時期」「対象とする読者」の項目別に、表（P289）にまとめ、各資料の特徴を確認する。資料に偏りや不足がある場合は、随時資料収集の機会を設ける。</p> <p><第7～9時></p> <p>1 「活動のポイント」4より、各資料の論点を比較するポイントを捉え、自分の立場や意見、問題意識の明確化との関連性を理解する。</p> <p>2 「論点整理表」の四つの観点に沿って、資料を整理する。「背景と意義」「主張と根拠」「他資料との関係」「自身の意見」の項目別に、表にまとめる。</p> <p>3 論点を整理したことで見えてきた、テーマについての自分の立場や意見、問題意識をまとめる。</p> <p><第10・11時></p> <p>1 「活動のポイント」5より、テーマを検討する観点を理解し、テーマ設定と資料の収集・整理との相関関係をP285の図をもとに理解する。</p> <p>2 五つの観点（P291）からテーマの検討を行う。各自が書きあげた表を、四～六人のグループ内で確認し合い、互いに疑問点の指摘や助言を行う。その結果からテーマの変更や修正を行って、適切なテーマの設定をする。</p> <p>3 資料の表を作成する過程で生じた困難や浮かんだ疑問、気づいたことなどをグループで話し合う。</p> <p>4 「振り返りのポイント」の各項目について振り返り、確認する。</p> <p>* Dこの教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	
--	--	--	---	--

■ 2 学期				
I 部 3 人間を見つめる (9～10月)				
読む 分人とは何か P42 2時間	[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読む こと(1)ア, オ, キ	<ul style="list-style-type: none"> 提示された問いに注意して筆者の主張を理解し, 自分に引き寄せて考える。 	<第1時> 1 筆者の述べる「本当の自分」という概念に注意しながら, 本文を通読する。(手引き1) 2 筆者による「個人」という概念の定義をつかみ, 「本当の自分」との関連性を読み取る。(手引き2) 3 「個人」とは異なる「分人」という概念について理解する。(手引き3) 4 分人のネットワークには中心が存在しないと筆者が考える理由を, 具体例に着目しながらまとめる。(手引き4・論理の力) <第2時> 1 「知人の数」と「分人の数」の相違点を具体例に着目して読み取り, 「分人」の特徴をまとめる。(手引き5・論理の力) 2 「私という存在」について, 一般的な考えと筆者の考えの違いを, 「本当の自分」・「キャラ」という語句を用いてまとめる。(手引き6)	[知技] <ul style="list-style-type: none"> 言葉には, 言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 [思判表] <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において, 文章の種類を踏まえて, 内容や構成, 論理の展開などを的確に捉え, 論点を明確にしながら要旨を把握している。 「読むこと」において, 関連する文章や資料を基に, 書き手の立場や目的を考えながら, 内容の解釈を深めている。 「読むこと」において, 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に, 必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主] 進んで本文中の複数の問いと具体例の配置に着目しながら, 筆者独自の造語に基づく主張を読み取り, 今までの学習を生かして「分人」という観点から自分とその人間関係について考えを深めようとしている。
読む 【論理の力】 つなげる力 P136 2時間	[知技] (1)ウ/ (2)ア [思判表] 読む こと(1)ア, エ	<ul style="list-style-type: none"> 「接続関係」について学び, 文章を論理的に理解する力を養う。 	<第1時> 1 論理的文章において, 接続表現を用いることの重要性を, 【問2】の文章から考える。 2 「逆接」の接続関係と接続表現について, 【例2】【例3】の文章から理解を深める。 3 逆接の接続関係の捉え方を, 【問3】の文章から考え,	[知技] <ul style="list-style-type: none"> 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 [思判表]

			<p>解説とともに確認する。</p> <p><第2時></p> <p>1 「例示」の接続関係と接続表現「例えば」を、【例4】の文章から確認し、【問4】の文章から、例示の接続関係について理解を深める。</p> <p>2 「根拠」の接続関係では、結論の示し方によって用いる接続表現が異なることを【例5】と【例6】の文章から理解し、根拠の接続関係の正しい捉え方について、【問5】とその解説から理解を深める。</p>	<p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握している。</p> <p>・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。</p> <p>[主] 粘り強く論理的な文章の接続関係と接続表現の理解を深め、今までの学習を生かして接続関係を捉えようとしている。</p>
<p>読む メディアの変容</p> <p>P52</p> <p>■文章を読み比べるために</p> <p>P61 4時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ, ウ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア, オ, キ</p> <p>④読むこと(2)エ</p> <p>[知技] (2)ウ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ウ, エ, キ</p> <p>④読むこと(2)エ</p>	<p>・挙げられている事例と筆者の分析の関心に注意して読み、人間関係の在り方について考えを深める。</p> <p>・文章の読み比べ方を学び、比較する方法を理解する。</p>	<p><第1時></p> <p>1 近代以前・以後の社会と人間関係の変化に注意しながら、本文を通読する。(手引き1)</p> <p>2 「情報の問い」「意味の問い」「論証の問い」を意識して、本文についての質問を考えて書き出す。(論理の力)</p> <p>3 近年のネット環境と人間関係への依存度の関連性について、「制度的な枠組み」が強かった時代との比較に着目して読み取る。(手引き2)</p> <p>4 人間関係の「ユートピア化」と「ディストピア化」について、人間関係の自由化と価値意識の多元化の関連性に着目してまとめる。(手引き3)</p> <p><第2時></p> <p>1 価値意識の多元化した社会において、「キャラ」を演じることと人間関係の円滑化の関連性を読み取る。(手引き4-1・4-2)</p> <p>2 「予定調和を重んじる人間関係」の意味を理解し、「多様性」と「単独性」の関係から、ネット上における「人間関係の落とし穴」とは何かを読み取る。(手引き5)</p> <p>3 「リアルな人間関係」と「単独性」の獲得の関係を、ネット上での人間関係と比較して理解する。(手引き</p>	<p>[知技]</p> <p>・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。</p> <p>・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。</p> <p>・推論の仕方について理解を深め使っている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握している。</p> <p>・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。</p> <p>・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。</p> <p>・「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深め</p>

			<p>6)</p> <p><第3時></p> <p>1 複数の文章を比較検討するポイントに着目して、「文章を読み比べるために」を通読する。(文章を読み比べるために)</p> <p>2 「分人とは何か」と「メディアの変容」の文章について、「内容」「構成」「表現」の各観点から、共通点と相違点をまとめる。</p> <p><第4時></p> <p>1 「キャラ」という概念について筆者が論じている内容を、「分人とは何か」と「メディアの変容」のそれぞれについてまとめ、比較する。(言語活動)</p> <p>2 「文章を読み比べるために」の課題より、二つの文章の主張を踏まえうえて、現代の人間関係の在り方についての自分の考えをまとめる。(文章を読み比べるために)</p>	<p>ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。 <p>[主] 粘り強く筆者の論じる社会の変化と人間関係の分析を理解し、学習課題に沿って人間関係を論じる二つの文章の共通点・相違点を考察して、人間関係の在り方について自分の考えを深めようとしている。</p>
I 部 4 学問のまなざし (10~12月)				
<p>読む 「リスク」と「リスク社会」</p> <p>P64 3時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読むこと(1)ア, カ, キ (活) 読むこと(2)イ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対比に注意して論の展開をつかみ、「リスク」という概念について理解を深める。 	<p><第1時></p> <p>1 「リスク」の意味に注意して本文を通読し、各段落の中心文を意識しながら意味段落に分けて全体の構成を捉える。(手引き1)</p> <p>2 ベックの主張を、近代化の進展に伴う二つの変化による、二つの「リスク」の増大に注目しながら、百字程度で要約する。(手引き2-1・2-2・論理の力)</p> <p><第2時></p> <p>1 リスクの概念について、二つの例(英語の「danger」と「risk」の対比・医師と患者の対比)に注目しながら、その内容を読み取る。(手引き3)</p> <p>2 ルーマンの主張を、対象への関与可能性の有無による「リスク」と「危険」の違いに注目しながら、百字程</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にししながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて

			<p>度で要約する。(手引き4・論理の力)</p> <p><第3時></p> <p>1 「医師に対する社会のまなざし」の変化と医療技術の進歩の関係を読み取り、「制御可能性」と「リスク」の関連性について捉える。(手引き5)</p> <p>2 本文全体を振り返り、「近代という時代の根本的な性質」とは何かをまとめる。(手引き6)</p> <p>3 「制御可能性」が高まることによって「リスク」が生じる具体例について考えをまとめ、話し合う。(言語活動)</p>	<p>て、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。</p> <p>・「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>[主]積極的にベックとルーマンの各記述から中心的主張を捉えて要約し、学習課題に沿って現代における「リスク」について具体的に考え、話し合おうとしている。</p>
<p>読む 「環境」とは何か P73 2時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読むこと(1)ア, カ, キ ㊦ 読むこと(2)ウ</p>	<p>・「環世界」などの概念に注意しながら筆者の主張を理解し、環境について理解を深める。</p>	<p><第1時></p> <p>1 小見出しに注意して本文を通読し、全体の構成を捉える。(手引き1)</p> <p>2 「思考実験」により分かったことをまとめ、「環境」を考える哲学的視点を理解する。(手引き2)</p> <p>3 マダニとムササビの例で筆者が言いたかったことを読み取り、第二段の内容を百字程度で要約する。(手引き3・論理の力)</p> <p>4 「人間にとっての環境」の特徴を読み取り、「自然環境」「社会環境(物質的な部分・非物質的な部分)」という構造で整理する。(手引き4)</p> <p><第2時></p> <p>1 「社会環境」の変化について、「農耕の成立以前と以後」「産業革命以降」の時期ごとにまとめる。(手引き5-1・5-2)</p> <p>2 筆者が「環境」を考えるうえで重要とすることについて読み取り、筆者の主張をまとめる。(手引き6)</p> <p>3 持続可能な社会環境の実現に向けて、企業やNPOなどが行っている最先端の取り組みの中から興味を持った事例を紹介し、更に考えられる具体的な取り組みについて話し合う。(言語活動)</p>	<p>[知技]</p> <p>・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。</p> <p>・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。</p> <p>・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。</p> <p>・「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>[主]粘り強く哲学的視点に立った「環境」に対する筆者の主張を理解し、今までの学習を生かして持続可能</p>

				な社会環境の実現に向けた具体的な取り組みについて考え、話し合おうとしている。
<p>書く</p> <p>【探究遍】 仮説を立てて検証する P 292</p> <p>■図表の読み取り方 P 318 14 時間</p>	<p>[知技] (1)エ／ (2)ア、ウ／(3) ア</p> <p>[思判表] 書く こと(1)ア、エ、 オ</p> <p>④ 書くこと(2) イ</p> <p>[知技] (2)イ</p> <p>[思判表] 書く こと(1)ア</p>	<p>・仮説を立てて検証し、検証過程を文章にまとめる。</p> <p>・図表の読み方を理解し、情報を適切に読み取れるようにする。</p>	<p><第1・2時></p> <p>1 「探究学習へのアプローチ」を通読して、四つの学習ステップの流れと、各ポイントを確認し、「探究学習」への理解を深める。(探究学習へのアプローチ)</p> <p>2 「学習の流れ」を読み、活動のポイントの見通しを持つ。「探究学習」の四つのステップのうち、「情報の収集」と「整理・分析」を実践して、その手順や方法を理解し、テーマを吟味するという中心課題を捉える。</p> <p><第3～5時></p> <p>1 「課題」の中から一つを選び、問題の前提と、そこに応じたどのような傾向が見られるかについて、インターネットを使うなどして現象を把握する。</p> <p>2 同じ課題を選んだ人どうしてグループに分かれ、課題の現象に基づく疑問点を出し合い、その原因や結果について仮説を立てる。</p> <p><第6～9時></p> <p>1 仮説を検証するための根拠となる情報を、インターネットなどを利用して集める。</p> <p>2 「図表の読み取り方」の③を読み、複数の図表を関連づけて分析する具体的方法を理解する。二つの「練習」(P 323) と、「発展」(P 323) の課題に取り組んで、複数の図表を考察・分析するポイントを理解する。(図表の読み取り方)</p> <p>3 集めた情報を整理・分析し、立てた仮説の妥当性を検証する。</p> <p>4 集めた情報から、更に新たな疑問や課題が生じた場合、必要に応じて追加で調査を行う。</p> <p><第10～12時></p> <p>1 検証の過程を文章にまとめるため、構成を考え、メモ</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。 推論の仕方について理解を深め使っている。 新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」において、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。 「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。 「書くこと」において、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫している。 <p>[主] 積極的に仮説を立てて検証する方法を理解し、学習の見通しをもって情報を収集・整理し、分析することによって仮説の妥当性を判断し、検証の過程を文章にまとめようとしている。</p>

			<p>を作る。</p> <p>2 構成メモをもとに，報告文にまとめる。</p> <p><第 13・14 時></p> <p>1 報告文が書けたら読み直し，仮説の検証過程が的確に伝わる文章であるかを確認し，必要があれば推敲する。</p> <p>2 「振り返りのポイント」の各項目について振り返り，課題について各項目が達成できているかを確認する。</p> <p>* Dこの教材には，関連するデジタルコンテンツが用意されているので，適宜利用するとよい。</p>	
<p>書く</p> <p>【言葉のトレーニング】</p> <p>地方都市を考える</p> <p>P 336</p> <p>1 時間</p>	<p>[知技] (1)ウ，エ / (2)ア，ウ</p> <p>[思判表] 書くこと(1)ア，イ，ウ</p> <p>④ 書くこと(2)ア</p>	<p>・統計資料をもとに地方都市の在り方を論じた文章を読み，説得力のある根拠の示し方を理解する。</p>	<p><第 1 時></p> <p>1 文章と統計資料の関連性に注意しながら本文を通読し，意味段落に分けて全体の構成を捉える。</p> <p>2 取り上げられた他者の意見と，それに反対する筆者の意見を端的にまとめる。</p> <p>3 図 1～図 5 までのグラフから読み取れる事柄を整理して，反証する筆者の意見の根拠を読み取る。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など，文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ・推論の仕方について理解を深め使っている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において，実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について，書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集，整理して，目的や意図に応じた適切な題材を決めている。 ・「書くこと」において，情報の妥当性や信頼性を吟味しながら，自分の立場や論点を明確にして，主張を支える適切な根拠をそろえている。 ・「書くこと」において，立場の異なる読み手を説得するために，批判的に読まれることを想定して，効果的

				な文章の構成や論理の展開を工夫している。 [主] 進んで統計資料に基づく反証の方法を理解し、今までの学習を生かして説得力のある根拠の示し方や建設的な反論について、考えを深めようとしている。
■ 3 学期				
I 部 5 社会を捉え直す (1~2月)				
読む 「である」と「する」こと P84	[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読む こと(1)ア, エ	・ 例示と意見の関係を整理して主張を捉え、変化する社会における人間の在り方について考える。	<第1時> 1 具体例と筆者の主張との関係に注意して、本文を通読する。(手引き1) 2 『『である』ことと『する』こと』という表題の意味について考える。 3 「時効」の制度のロジック中に潜む一民法の法理にとどまらない重大な意味、日本国憲法第十二条の精神、「近代社会の自由とか権利」などの問題について、筆者が述べたいことをつかむ。(手引き2-1) 4 「实在論 vs. 唯名論」を読み、实在論と唯名論の考え方を理解する。(思考への扉1 实在論 vs. 唯名論)	[知技] ・ 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・ 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 [思判表] ・ 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・ 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 ・ 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。 [主] 粘り強く二項対立の論理展開や具体例と筆者の主張との関係をつかみ、今までの学習を生かして「である」価値と「する」価値について自分に引き寄せて考え、現代社会に対する認識を深めようとしている。
思考への扉1 实在論 vs. 唯名論 P108 5時間	[知技] (1)イ [思判表] 読む こと(1)カ	・ 書かれている内容を理解し、「『である』ことと『する』こと」を読み深める。	<第2時> 1 民主主義における「制度の自己目的化」やブディングの比喻における「属性」などのキーワードを手がかりにして、「近代精神のダイナミックス」の内容をつかむ。(手引き2-2・2-3) 2 「である」社会の内容を、徳川時代の様相を通して具体的に理解する。 3 外部的に識別されることが第一の要件であり、相互に何者であるかが判明していれば「らしく」の道徳に従って話し合いが軌道に乗るような、「である」社会の道徳の特徴を理解する。 <第3時>	

			<p>1 人間関係が、まるごとの関係ではなく、役割関係に変わっていくという、「である」社会から「する」社会への推移を理解する。(手引き 2-4)</p> <p>2 「する」原理を建て前とする組織が、「である」社会のモラルによって「セメント化され」という、「する」社会に残る「である」社会の論理・価値を理解する。(手引き 2-5)</p> <p>3 「する」価値に基づく検証が、必要なところでは欠けており、「する」価値の侵入が反省されようとしているところでは進展しているという主張を踏まえ、「する」価値への急速な転換の功罪について考える。</p> <p><第4時></p> <p>1 第八節「学問や芸術における価値の意味」・第九節「価値倒錯を再転倒するために」について、「意味の問い」「情報の問い」を意識して質問を考える。(論理の力)</p> <p>2 政治や経済における価値と、学問や芸術などの文化的創造における価値の違いを考える。</p> <p>3 「である」価値と「する」価値との「倒錯」とはどういうことかを考え、価値の「倒錯」と「倒錯を再転倒する道」の内容を理解する。(手引き 2-6)</p> <p><第5時></p> <p>1 「である」ことと「する」ことについて、筆者が挙げている具体例を整理し、どのような価値基準を表しているかまとめる。(手引き 3-1・3-2)</p> <p>2 筆者が主張していることを、小見出しのついた段落ごとにまとめる。(手引き 4)</p>	
<p>読む 消費されるスポーツ P98 4時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読む こと(1)ア, カ ㊦ 読むこと(2)</p>	<p>・筆者の提示する問題を読み取って整理し、メディアとスポーツの関係について理解を深める。</p>	<p><第1時></p> <p>1 本文を通読して、「スポーツ」と関連付けて述べられているのは何か、四つのまとめりに理解する。(手引き 1)</p> <p>2 四つのまとめりに「情報の問い」「意味の問い」</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通し

	ア		<p>「論証の問い」を意識して質問を考える。(論理の力)</p> <p>3 第一段から、アメリカのスポーツと「大衆消費社会」の関係について理解する。(手引き2)</p> <p><第2時></p> <p>1 第一段から、スポーツ、特に野球やアメリカンフットボールのどのような点が消費に向いていたかを読み取る。</p> <p>2 第二段から、スポーツと新聞・ラジオ・テレビそれぞれのメディアとの関係について要点を抜き出す。</p> <p>3 スポーツが「商品としての情報」になったとはどういうことかを理解する。(手引き3)</p> <p><第3時></p> <p>1 第三段から「テレビは一つの権力になった」とはどういうことか、具体例を通して理解する。(手引き4)</p> <p>2 第四段から、スポーツと「社会」はどのような関係にあるのかを読み取る。(手引き5)</p> <p><第4時></p> <p>1 「活動の総体」としての「社会」と、ア priori に存在する「社会」との違いを理解する。</p> <p>2 筆者がどのようにスポーツを位置付けているかを踏まえたうえで、競技者あるいは観客としての具体例を交えながら、スポーツについて、自分の考えを八百字程度で書く。(言語活動1)</p>	<p>て、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握している。 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。 <p>[主]積極的にスポーツとメディアという社会事象の分析を通じた筆者の主張を読み取り、学習課題に沿ってスポーツについて具体例を挙げながら、自分の考えをまとめようとしている。</p>
I 部 6 イメージを読む(2~3月)				
<p>読む 日本人の美意識 P110 5時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読むこと(1)イ, オ ㊦ 読むこと(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図を適切に参照して本文中の対比を捉え、日本と西欧の美意識の違いを理解する。 	<p><第1時></p> <p>1 「美しい」「清い」という言葉のイメージを挙げ、全文を通読する。(手引き1)</p> <p>2 本文を読んで、印象に残った表現、文章の構成の仕方などについて気づいたことを挙げる。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通し

	ウ		<p>3 「うつくし」「きよし」という言葉の意味の変遷をまとめる。(手引き 2-1)</p> <p><第2時></p> <p>1 「うつくし」から考えられる日本人の美意識をまとめ、西欧のそれと対比的に理解する。(手引き 2-2-①・3-1・4)</p> <p>2 日本の絵画と西欧の絵画との相違を、表現上の特色、画家の視点から整理する。(手引き 2-2-②・3-2・3-3)</p> <p><第3時></p> <p>1 前時に整理したことを踏まえて、巻頭の「洛中洛外図屏風」「婦女遊楽図屏風」「アテネの学堂」を比較して、構図や画家の視点などの違いについて話し合う。(言語活動1)</p> <p>2 「きよし」から考えられる日本人の美意識をまとめ、西欧のそれと対比的に理解する。(手引き 2-3・4)</p> <p><第4時></p> <p>1 「否定(貧しさ)の美学」の具体例を自分なりに挙げる。</p> <p>2 日本人の美意識が日本人の倫理観と結び付き、生活行動全般にまで及んでいることを理解し、具体例を自分なりに挙げる。</p> <p><第5時></p> <p>1 各段に小見出しをつけ、本文の内容を百字程度で要約する。(論理の力)</p> <p>2 筆者の見解についてどのように考えるか、自分の意見を六百字程度の文章にまとめる。(言語活動2)</p>	<p>て、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。 「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。 <p>[主] 粘り強く二項対立の論理展開を資料と結びつけて理解し、学習の見通しをもって日本人の美意識と生活行動の関連性について、自分の考えを深めようとしている。</p>
<p>読む 地図の想像力 P124</p>	<p>[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読む</p>	<ul style="list-style-type: none"> 提示されている地図に注目して論の展開を押さえ、地図 	<p><第1時></p> <p>1 「地図」のイメージと「リアリズム」について考えた</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。

<p>■ 図像を読み解くために P131 4時間</p>	<p>こと(1)イ, オ ④ 読むこと(2) イ [知技] (1)ア [思判表] 読む こと(1)イ</p>	<p>に対する筆者の考 えを読み取る。 ・ 図像の読み解き方 を学び, 描き手の意 図や目的を考える。</p>	<p>ことを, 具体的に挙げる。 2 具体例と筆者の主張の関係を押さえながら, 本文を通 読する。(手引き1) 3 イメージの表現である「地図」について, 具体的に読 み取る。(手引き2・3) 4 第一段の部分で, 筆者が反対している考え方をまと め, その考え方を端的に表現している言葉を捉える。 (論理の力) <第2時> 1 「概念やイメージとしての地図」について, 筆者の主 張を読み取る。(手引き4-1・4-2) 2 世界像の表現である「地図」について, 筆者の主張を 読み取る。(手引き5-1・5-2) <第3時> 1 「図像を読み解くために」(P131)を読み, 地図やイ ラストなどから描き手の意図や, 時代背景を伴う世界 認識などを分析・解釈する方法を, 具体例を通して理 解する。(図像を読み解くために) 2 「課題」(P132)で選んだ身近な図像に見られる描き 手の意図や目的について話し合う。 <第4時> 1 本文全体の構成を踏まえて, 地図に対する筆者の主張 をまとめる。(手引き6) 2 身近にあるさまざまな地図の工夫について, 具体例を 用いて話し合う。(言語活動1)</p>	<p>・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするため に必要な語句の量を増し, 文章の中で使うことを通し て, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・ 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方につい て理解を深めている。 [思判表] ・ 「読むこと」において, 文章の種類を踏まえて, 資料 との関係を把握し, 内容や構成を的確に捉えている。 ・ 「読むこと」において, 関連する文章や資料を基に, 書き手の立場や目的を考えながら, 内容の解釈を深め ている。 [主]進んで近代的思考による科学主義的な地図観に反 駁する筆者の立場とその論理展開を理解し, 学習課題 に沿って身近な地図から描き手の目的や意図とその 工夫を読み解き, 自分の考えを述べようとしている。</p>
--------------------------------------	---	--	---	---

領域・教材名 ページ数・配当時数	学習指導要領と の対応	学習目標	学習活動例 (*は指導上の留意点など)	評価規準例
<p>■ 1 学期</p>				

II部 1 言葉を再考する(4月)				
読む 混じり合う言葉 P 156 思考への扉2 言語的相対論 P 172 2時間	[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読む こと(1)ア, エ [知技] (1)イ [思判表] 読む こと(1)カ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者の体験と考察の関係に着目して読み, 言語に対する見方を広げる。 ・ 書かれている内容を理解し, 「混じり合う言葉」を読み深める。 	<第1時> 1 筆者の体験と考察の関係に注意しながら, 本文を通読する。(手引き1) 2 「情報の問い」「意味の問い」「論証の問い」を意識して, 本文についての質問を考えて書き出す。(論理の力) 3 筆者が子供の頃に考えた「表音文字」と「表意文字」の違いについて整理してまとめる。(手引き2) 4 漢字名の「名付け」とアイデンティティの模索についての関係を読み取る。(手引き3) <第2時> 1 「言語的相対論」を通読し, 言語と人間の「環世界」の関係性について読み取る。(思考への扉2 言語的相対論) 2 「知覚された情報」と「特定の言葉の発動」の関係について読み取り, 人間の「環世界」とのつながりを理解する。(手引き4) 3 日本語とフランス語の織り交ざった「言語の環世界」での筆者の体験と娘への願いを読み取り, 理解する。(手引き5)	[知技] <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉には, 言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・ 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 [思判表] <ul style="list-style-type: none"> ・ 「読むこと」において, 文章の種類を踏まえて, 内容や構成, 論理の展開などを的確に捉え, 論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・ 「読むこと」において, 文章の構成や論理の展開, 表現の仕方について, 書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 ・ 「読むこと」において, 人間, 社会, 自然などについて, 文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて, 新たな観点から自分の考えを深めている。 [主] 進んで多言語文化の中で育った筆者の体験と, 「言語の環世界」の考察についての関連性を捉え, 学習課題に沿って人間の思考や認識と言語についての見方を広げようとしている。
読む 言語と記号 P 164 2時間	[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読む こと(1)ア, エ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 論の展開を意識して主張を理解し, 言語に対する筆者の考え方や自己の考え方を比較する。 	<第1時> 1 言語や記号というものを, どのようなものと考えているかについて, 各自の意見やイメージを発表する。 2 範読の後, 全文を通読し, 取り上げられている具体例を簡単なメモにまとめる。(手引き1) 3 さまざまな記号とその定義について筆者が述べていることを正確に理解する。(手引き3-1)	[知技] <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉には, 言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・ 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について

			<p>4 本物の存在を前提とする〈記号＝代用品〉観という、従来の記号学における記号観を正確に理解する。(手引き 2-1)</p> <p>5 従来の記号観では説明のつかない言語記号の特殊性について、筆者の挙げている具体例に即して正確に理解する。(手引き 2-2・2-3)</p> <p><第 2 時></p> <p>1 「名付ける」という行為の根源的作用について、挙げられている命名行為の具体例に即して正確に理解する。(手引き 3-2・3-3)</p> <p>2 言語が行う二つの命名行為のうち、見逃されがちであった文化形成力について、挙げられている具体例に即して正確に理解する。(手引き 4)</p> <p>3 筆者の言う言語の奇妙さ・不可思議さとはどのようなことか、全文の内容を踏まえつつ正確に理解する。(手引き 5)</p> <p>4 筆者が反対している論から、筆者自身の主張へと大きく転換している箇所を読み取り、「逆接」の接続関係について理解を深める。(論理の力)</p> <p>5 百～百五十字程度で本文の要旨をまとめ、筆者の主張のポイントがきちんと押さえられているか、内容をチェックする。</p>	<p>て理解を深めている。</p> <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握している。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 <p>[主] 粘り強く具体例と筆者の主張の文章構造をつかみ、学習の見通しをもって言語の持つ文化形成力について、自分の考えを深めようとしている。</p>
<p>読む</p> <p>【言葉のトレーニング】</p> <p>やさしい日本語</p> <p>P 354</p> <p>1 時間</p>	<p>[知技] (1)ア, ウ / (2)イ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア, エ, オ</p> <p>④ 読むこと(2)ア</p>	<p>・複数の文章や資料を読んで「やさしい日本語」について理解し、実用的な文章の分かりやすさについて考える。</p>	<p><第 1 時></p> <p>1 具体例に着目しながら、本文を通読する。</p> <p>2 本文の「緊急時」の言い換え例と、「資料 外国人にも分かりやすい文章」から、外国人に向けた「やさしい日本語」についてのポイントを理解する。</p> <p>3 本文の「公的文書」の書き換え例と、「資料 日本人に分かりやすい文章」から、読んで分かりやすい「やさしい日本語」のポイントを理解する。</p> <p>4 四～六人のグループに分かれて、上記のポイントを踏</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容

			<p>まえながら、「問題」の文書を、外国人に向けた「やさしい日本語」に書き換える。</p> <p>5書き換えた文書をグループごとに発表し、検討し合う。</p> <p>6「やさしい日本語」に書き換える必要性のある場面を具体的に想定して話し合い、その意義を理解する。</p>	<p>や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。</p> <p>・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。</p> <p>・「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。</p> <p>[主] 積極的に必要な情報の取捨選択や、言葉の難易度を考慮した分かりやすい日本語への書き換えについて理解し、今までの学習を生かして「やさしい日本語」の必要性について自分の意見をまとめ、話し合おうとしている。</p>
--	--	--	---	---

II部 2 近代という時代（4～7月）

<p>読む 環境問題と孤立した個人 P174 2時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読むこと(1)ア, エ</p>	<p>・取り上げられる話題をたどりながら近代の自然観を捉え、環境問題についての考えを深める。</p>	<p><第1時></p> <p>1 現代の環境問題について考えたことを、具体的に挙げる。</p> <p>2 五つの意味段落で述べられている筆者の考えを、取り上げられた話題に注意しながら押さえ、本文を通読する。(手引き1)</p> <p>3 「情報の問い」「意味の問い」「論証の問い」を意識して、本文についての質問を考えて書き出す。(論理の力)</p> <p>4 取り上げられている問題の意味内容を理解して、筆者の考えを読み取る。(手引き2)</p> <p><第2時></p> <p>1 近代科学の自然観についての筆者の考えを読み取る。</p> <p>2 二元論的認識論についての筆者の考えを読み取る。(手引き3・4)</p> <p>3 近代科学における自然観と同型な個人概念について</p>	<p>[知技]</p> <p>・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。</p> <p>・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。</p> <p>・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。</p> <p>[主] 粘り強く近代の二元論的自然観と環境問題とのつながりを捉え、学習課題に沿って環境問題に対する視</p>
--	--	--	---	---

			<p>の筆者の考えを読み取る。(手引き5)</p> <p>4筆者の考える環境問題について読み取り,まとめる。(手引き6)</p>	<p>野を広げようとしている。</p>
<p>書く</p> <p>【探究編】</p> <p>資料を活用して論述する</p> <p>P306</p>	<p>[知技] (1)エ/ (2)ア, イ</p> <p>[思判表] 書くこと(1)ア, イ, オ</p> <p>⑧書くこと(2)エ</p>	<p>・資料を集めて論題を設定し,意見を整理して論述する。</p>	<p><第1時></p> <p>1「学習の流れ」を読み, 論述活動についての見通しを持つ。</p> <p>2「活動のポイント」1を読み, P309上段の図を参考に, 論題設定の方法を理解する。</p> <p>3「課題」を踏まえ, 「SDGs」の十七項目と身近な話題や具体例, 自分の興味・関心を関連させ, 開発目標から各自が一つを選んでテーマを決定する。</p> <p><第2～5時></p> <p>1テーマに沿った資料を収集し, 観点を決めて整理する。「情報整理のポイント」(P285)や「論点整理表」(P290)を活用して資料を視覚化したり, 思考ツール(P386)を使ったりして考察を行うとよい。</p> <p>2資料の考察から「問い」のかたちで論題の候補を箇条書きにする。その中から自分の意見をまとめられそうなものを焦点化していく。</p> <p>3四～六人のグループに分かれて, 各自の考察や論題を持ち寄り, 意見交換を行い論題の再検討を行う。資料の偏りや不足に気づいた場合は, 随時資料収集を行い, 再度考察を行う。</p> <p><第6～9時></p> <p>1「活動のポイント」2を読み, 意見整理の方法を理解する。</p> <p>2「引用の方法」(P324)を読み, 資料を引用する場合のルールを理解する。</p> <p>3「意見整理の例」を参考に, 考察内容や自分の意見, 資料の価値づけを, 枠組みに沿って整理する。論述の必要に応じて, 図表の作成も行う。</p>	<p>[知技]</p> <p>・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。</p> <p>・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など, 文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。</p> <p>・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。</p> <p>・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「書くこと」において, 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について, 書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集, 整理して, 目的や意図に応じた適切な題材を決めている。</p> <p>・「書くこと」において, 情報の妥当性や信頼性を吟味しながら, 自分の立場や論点を明確にして, 主張を支える適切な根拠をそろえている。</p> <p>・「書くこと」において, 立場の異なる読み手を説得するために, 批判的に読まれていることを想定して, 効果的な文章の構成や論理の展開を工夫している。</p> <p>・「書くこと」において, 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど, 文章全体の論理の明晰さを確かめ, 自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫している。</p> <p>[主] 粘り強くテーマに沿った資料を収集・整理して論題を設定し, 学習の見通しをもって資料の価値づけを行い, 自分の意見を明確にして論述しようとしている。</p>
<p>■引用の方法</p> <p>P324</p> <p>14時間</p>	<p>[知技] (1)ウ, エ</p> <p>[思判表] 書くこと(1)ウ, オ</p>	<p>・引用の方法を学び, 適切に引用できるようにする。</p>		

			<p><第 10～13 時></p> <p>1 「活動のポイント」3 と「附録 2 論文・レポートの種類と構成 1 小論文の構成」(P382) を読み、小論文の基本的な構成について理解する。</p> <p>2 「意見整理の枠組み」と「小論文の構成例」を照合し、関連性を理解する。</p> <p>3 自分の作成した意見整理の枠組みをもとに、「小論文の構成例」に沿って小論文を書く。</p> <p><第 14 時></p> <p>1 書き終えた小論文を読み直したり、グループに分かれて小論文を読み合ったりして、推敲や修正を行う。</p> <p>2 「振り返りのポイント」の各項目について振り返り、確認する。</p> <p>* D この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	<p>る。</p>
<p>読む</p> <p>【言葉のトレーニング】</p> <p>「へビににらまれたカエル」の生き残り戦略 P330 1 時間</p>	<p>[知技] (1)ウ, エ / (2)ア, ウ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア, イ ㊦ 読むこと(2)ア</p>	<p>・ 研究論文の内容を解説した文章を読み、探求の結果を分かりやすく伝える方法について考える。</p>	<p><第 1 時></p> <p>1 実験と結果、考察と推論に注目しながら本文を通読し、本文全体の構成を理解する。その際、「附録 2 論文・レポートの種類と構成 4 研究論文の構成」(P384) を読み、研究論文の基本的な構成を理解しておくとい。</p> <p>2 第一段から、研究の背景や目的、検証方法を読み取る。</p> <p>3 第二段から、トノサマガエルの静止行動と、後手・先手の戦術との関連性を読み取り、図 1 を示す効果や実験結果と考察の展開方法を理解する。</p> <p>4 トノサマガエルの静止行動をおとり戦術とした根拠を、図 2・表 1 と第三段の実験結果の考察から読み取る。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・ 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・ 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ・ 推論の仕方について理解を深め使っている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握している。



			<p>り、その示し方を理解する。</p> <p>5 トノサマガエルの静止行動とシマヘビの探索能力の関連性を、表2と第四段の実験結果の考察から読み取る。</p> <p>6 第五段より、筆者が実験結果から導き出した、トノサマガエルの静止行動と戦術の意味するところを読み取る。</p> <p>7 捕食回避のために静止行動をとる「ヘビににらまれたカエル」が不利にならない理由をまとめる。</p>	<p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。</p> <p>[主]積極的に論述の根拠となる実験結果や資料を示す意味や効果を理解し、学習課題に沿って説得力のある論述の方法を捉えようとしている。</p>
<p>読む 鏡の中の現代社会 P182</p> <p>思考への扉3 時代の幕開け P192 2時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読むこと(1)ア, エ</p> <p>[知技] (1)イ [思判表] 読むこと(1)カ</p>	<p>・さまざまな異世界との比較を通して、自己の生きる世界を相対的に認識することの意義を理解する。</p> <p>・書かれている内容を理解し、「鏡の中の現代社会」を読み深める。</p>	<p><第1時></p> <p>1 異国（異世界）と現代社会の違いに着目し、構成と要点を確かめながら本文を通読する。（手引き1）</p> <p>2 「情報の問い」「意味の問い」「論証の問い」を意識して、本文についての質問を考えて書き出す。（論理の力）</p> <p>3 「〈自明性の罠からの解放〉」の内容に注意し、筆者が提示している視点を理解する。</p> <p>4 旅の経験から筆者は何を述べようとしているのか、以降の文章とのつながりに注意して捉える。</p> <p>5 異国の人々と、「近代」の精神との時間に対する感覚の違いを理解する。（手引き2-1・2-5・3）</p> <p><第2時></p> <p>1 日本の駅での騒動に象徴される、あたりまえの「忙しさ」の世界が、異国ではなぜ「狂気」として扱われるのかを読み取る。（手引き2-2・4-1）</p> <p>2 ヨーロッパの人たちが育ててきた、「近代」の時間（時計）と人間たちの生との関係を把握する。（手引き2-3）</p> <p>3 「死者の日」の祭りの「余分の一人分」の感覚を、筆</p>	<p>[知技]</p> <p>・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。</p> <p>・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。</p> <p>・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。</p> <p>・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。</p> <p>[主] 進んで筆者の主張と、論拠となる五つの具体例の</p>

			<p>者はどう捉えているかを読み取る。(手引き 2-4)</p> <p>4 「方法としての異世界」という表現の内容に注意し、筆者の主張を本文に即して理解する。(手引き 4-2・5)</p> <p>5 「時代の幕開け」を読み、中世から近代への流れと、近代の中心的な考え方を捉え、「近代の後の新しい社会のかたち」とはどのようなものかを、筆者の主張を踏まえて考え、まとめる。(思考への扉 3 時代の幕開け)</p>	<p>関連性を理解し、今までの学習を生かして自分の生きる世界とは異なる価値や時間感覚を持つ社会を知ることの意義をつかもうとしている。</p>
■ 2 学期				
II 部 3 メディアを問い直す (9~11 月)				
<p>読む おじいさんのランプ P194 2 時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ, ウ/(3)ア [思判表] 読むこと(1)ア, オ, キ ④ 読むこと(2)エ</p>	<p>・ 話題と主張の関係に着目して読み、時代とともに変わっていく本の在り方について考える。</p>	<p><第 1 時></p> <p>1 具体例とそれに対する筆者の主張との関係に注意して、本文を通読する。(手引き 1)</p> <p>2 『おじいさんのランプ』の内容と、それに対する筆者の考えを読み取る。(手引き 2・3)</p> <p>3 第二段の本と散文の形式の具体例は、どのようなことを示すために挙げられているかを捉える。(論理の力)</p> <p>4 筆者の考える「本質的な変化」がどういうものかを読み取る。(手引き 4)</p> <p><第 2 時></p> <p>1 「人間と情報の関係」に関する筆者の考えを、具体例をもとに読み取る。(手引き 5)</p> <p>2 第四段の内容を読み取り、「紙のような古いものはいざというときに役に立たない。」という言葉が含み持つ意味について考える。</p> <p>3 情報は「どのようなものに乗せて人に届けられるべきか」という観点から、本の今後の在り方について考え、六百字程度にまとめる。(言語活動)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・ 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・ 新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・ 「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。 ・ 「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の

			<p>*「書物の近代」「読み書きする身体」の読解後に、本文との相違点や共通点について、「文章を読み比べるために」(P61)の「内容」「構成」「表現」の三つの観点を参照して比較・検討し、論述活動を行ってもよい。</p>	<p>考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>[主] 進んで筆者の主張と、その論拠となる具体例を捉え、学習の見通しをもって自分の日常生活に引き寄せて社会の発展に伴う本の在り方について、自分の考えを明確にして論述しようとしている。</p>
<p>読む 【論理の力】 論証する力</p> <p>P142 2時間</p>	<p>[知技] (2)ア, ウ [思判表] 読むこと(1)ウ, カ</p>	<p>・論証の適切さを判断する方法を学び、説得力のある論証や反論を行う力を養う。</p>	<p><第1時></p> <p>1 「事実」と「考え」の区分, 「推測」と「意見」の違いを理解する。</p> <p>2 「憶測」と「独断」, 「論証」の違いを捉え, 「論証」において根拠を示す重要性を理解する。</p> <p>3 「根拠の適切さ」と「導出の適切さ」について, 【問6】の文章と解説を通して確認し, 論証の説得力についての理解を深める。</p> <p><第2時></p> <p>1 論証の説得力を検討し, 反論する方法について理解を深める。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ・推論の仕方について理解を深め使っている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において, 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し, 文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 ・「読むこと」において, 人間, 社会, 自然などについて, 文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて, 新たな観点から自分の考えを深めている。 <p>[主] 粘り強く論証の適切さを判断する「根拠の適切さ」と「導出の適切さ」という二つの観点を理解し, 今までの学習を生かして説得力のある論証や反論方法について捉えようとしている。</p>
<p>読む 書物の近代</p> <p>P202 2時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ, ウ/(3)ア [思判表] 読むこと(1)ア, オ, キ ④ 読むこと(2)エ</p>	<p>・書物の変遷を題材とした評論を読み, 情報化社会における書物の在り方について理解する。</p>	<p><第1時></p> <p>1 述べられている筆者の考えを押さえながら, 本文を通読する。</p> <p>2 「書物の記憶」についての筆者の見解を読み取り, まとめる。</p> <p>3 読書における「身体的な知覚活動」について読み取る。</p> <p><第2時></p> <p>1 現在の「読み書きするツール」の在り方の変化と, それに対する筆者の考えについて読み取る。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には, 言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めている。

			<p>2 筆者の述べる「今後の書物の在り方」について読み取る。</p> <p>3 「書物の在り方」について、「おじいさんのランプ」で述べられていた内容と比較し、その相違点について考え、話し合う。</p> <p>* 「文章を読み比べるために」(P61・62)の「内容」「構成」「表現」の三つの観点を参照して比較するとよい。</p>	<p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。 <p>[主]積極的に筆者の経験や事例と主張のつながりを捉え、学習課題に沿って情報化社会における書物の在り方について、自分の考えを深めようとしている。</p>
<p>読む 読み書きする身体 P206 2時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ, ウ(3)ア [思判表] 読むこと(1)ア, オ, キ ④ 読むこと(2)エ</p>	<p>・文字の身体性について書かれた評論を読み、筆者の価値観を理解することで新たな視点を持つ。</p>	<p><第1時></p> <p>1 述べられている筆者の考えを押さえながら、本文を通読する。</p> <p>2 「モノとしての本の属性」についての筆者の見解を読み取り、まとめる。</p> <p>3 「読書における身体性」について読み取り、まとめる。</p> <p>4 現在の「読み書きする身体」の在り方の変化と、それに対する筆者の考えについて読み取る。</p> <p><第2時></p> <p>1 筆者の述べる「今後の書物の在り方」について読み取る。</p> <p>2 「書物の在り方」について、「おじいさんのランプ」で述べられていた内容と比較し、その相違点について考え、話し合う。</p> <p>* 「文章を読み比べるために」(P61・62)の「内容」「構成」「表現」の三つの観点を参照して比較するとよい。</p>	<p>[知技]・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の

				<p>の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>[主] 進んで本の物質的な意義と読書の身体性の関係を具体例から読み取り、今までの学習を生かして書物を通した読書経験について、自分の考えを深めようとしている。</p>
<p>書く</p> <p>【探究遍】 社会的な話題に関する文章を読み、短い論文を書く</p> <p>P 300 11 時間</p>	<p>[知技] (1)エ／(2)ア／(3)ア</p> <p>[思判表] 書くこと(1)ア、ウ、カ</p> <p>④ 書くこと(2)ウ</p>	<p>・文章を読んで問いを持ち、自分の意見を短い論文にまとめる。</p>	<p><第1時></p> <p>1 「学習の流れ」を読み、活動のポイントの見通しを持つ。</p> <p>2 「活動のポイント」 1・2を読み、「おじいさんのランプ」の例から、文章の主張と論拠を整理して問いを持ち、問いの検証に必要な情報を収集するまでの活動を具体的に理解する。</p> <p>3 「課題」の中から一つを選び、選んだ文章の主張と論拠を P 301 の主張と論拠を整理した例を参考にして整理する。「消費されるスポーツ」を選んだ場合は、四つのまとまりから最も興味のある一つに絞ることで、論文の焦点の拡散を防ぐようにする。</p> <p><第2～4時></p> <p>1 前時に整理した論理展開をもとに、「質問する力」(P 150)を参照し、P 302 の問いの例のように三つの種類の問いを作る。論拠に関わる「論証の問い」と密接な「情報の問い」は、「どの程度」「どのように」など図表や資料で検証可能な問いに絞る。</p> <p>2 問いを検証するための資料を収集し、読み取れる内容を P 302 の検証した例を参考にまとめる。</p> <p>3 「論証の問い」の裏付けとなる内容を検討し、調べた結果を分析して自分の意見を持つ。</p> <p><第5～9時></p> <p>1 「活動のポイント」 3・4を読んで、論述活動を具体的に理解する。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。 ・「書くこと」において、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫している。 ・「書くこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 <p>[主] 粘り強く課題の文章に検証可能な問いを立てて資料を収集し、学習の見通しをもって、論拠と主張を論文にまとめ、互いの論文を読んで意見を述べ合う活動をしようとしている。</p>

			<p>2 「論文の構成例」をもとに、論文の骨格を考え、構成をまとめる。「論証する力」(P142)を参考に、「根拠の適切さ」と「導出の適切さ」の観点から自分の主張と根拠を見直し、説得力のある論理的な構成になるよう検討する。</p> <p>3 構成案をもとに、八百字程度の論文を書く。</p> <p><第10・11時></p> <p>1 五人程度のグループに分かれて論文を読み合い、主張と論拠の適切さや説得力について、意見を出し合う。</p> <p>2 互いに出し合った助言や評価を通して、自分の文章の良さや課題を確認し、よりよい意見の構築となるよう論文の推敲や修正を行う。</p> <p>3 「振り返りのポイント」の各項目について振り返り、確認する。</p> <p>*  この教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。</p>	
<p>読む</p> <p>【言葉のトレーニング】</p> <p>つながりとしての段落</p> <p>P344</p> <p>1時間</p>	<p>[知技] (1)ウ, エ / (2)イ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア, エ</p> <p> 読むこと(2)ア</p>	<p>・段落の機能を論じた文章を読み、書き手の意図を的確に反映した文章構成の在り方を考える。</p>	<p><第1時></p> <p>1 段落の働きや効用に注意しながら、本文を通読する。</p> <p>2 「チャンク」の数と跳躍伝導の関連性をつかみ、段落の仕組みと働きを読み取る。</p> <p>3 各段落冒頭の小主題文と文章のアウトラインの関係を読み取り、読解における段落の効用を理解する。</p> <p>4 「問題」の二つの文章を読み、段落分けを行う。</p> <p>5 段落構成を考える際に注意することとして、気づいたことを話し合う。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表

				<p>現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。</p> <p>[主] 積極的に段落の仕組みや働き、読解における効用を理解し、学習課題に沿って書き手の思考の流れや意図が伝わりやすい文章構成について考えを深め、話し合おうとしている。</p>
II部 4 他者のいる思考 (11~12月)				
<p>読む 原始社会像の真実 P210 4時間</p>	<p>[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読むこと(1)ア, カ</p>	<p>・時間的に異なる世界を題材とした評論を読み、社会の変遷を捉える見方を身につける。</p>	<p><第1時> 1 原始社会の姿の三つの例と、それらを通じて述べられた筆者の考えを確かめながら、全文を通読する。(手引き1) 2 原始社会には戦争がなかったという見方について、筆者の考えを捉える。(手引き2-1)</p> <p><第2時> 1 原始社会では女性の地位が高かったという見方について、筆者の考えを捉える。(手引き2-2) 2 原始社会では環境を守っていたという見方について、筆者の考えを捉える。</p> <p><第3時> 1 原始社会の実像の捉え方と社会の変遷についての筆者の考えを理解する。(手引き2-3・3-1・3-2) 2 原始から現代に至る社会の変遷についての筆者の考えを理解する。(手引き4)</p> <p><第4時> 1 本文の内容を百五十字程度で要約する。(論理の力)</p>	<p>[知技] ・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。</p> <p>[思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握している。 ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。</p> <p>[主] 進んで原始社会の見方についての筆者の主張を理解し、学習の見通しをもって社会に対する歴史的見方や考え方を深めようとしている。</p>
<p>読む ロボットは意志を持つか P218</p>	<p>[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読むこと(1)ア, ウ,</p>	<p>・意志や自由について論じた評論を読み、哲学的な思考の方法を理解する。</p>	<p><第1時> 1 「意志」「自由」という概念の理解について、哲学の分野では複数の立場があることに注意しながら、本文を通読する。(手引き1)</p>	<p>[知技] ・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするため</p>

4時間	カ ④読むこと(2) ウ		<p>2「両立論」と「非両立論」の考え方を、それぞれまとめる。(手引き2)</p> <p>3「プログラムどおりに動くだけのロボット」と「ブロックボックス化したロボット」について、「非両立論」の立場では、自由意志の有無をそれぞれどのように考えるかを整理する。(手引き3)</p> <p><第2時></p> <p>1「ロボットは欲求を持ちうるか」という問いに対する筆者の考えをまとめる。(手引き4)</p> <p>2筆者が「意志は心の状態ではない」と考える理由を、具体例に注目して読み取る。(手引き5)</p> <p><第3時></p> <p>1「自分の意志で行為するロボット」についての筆者の考えを読み取り、「迷うロボット」の魅力から「自由」の持つ本質的意味と筆者の考えをまとめる。(手引き6)</p> <p>2本文から任意の部分を選んで、本文の論証に対する反論を考え、まとめる。(論理の力)</p> <p><第4時></p> <p>1前時にまとめた反論を発表し合い、主張と論拠の説得力について検討し合う。</p> <p>2意志を持つロボットが生まれることについての是非を話し合う。(言語活動)</p>	<p>に必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要旨を把握している。 「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。 <p>[主]粘り強く哲学における複数の立場による自由論について理解し、今までの学習を生かして哲学的観点からロボットが「意志を持つ」ことについて自分の考えを深め、話し合おうとしている。</p>
-----	--------------------	--	---	--

■ 3学期

Ⅱ部 5 困難な時代に(1～2月)

読む 社会の壊れるとき—— 知性的であるとはどう いうことか	[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読む こと(1)ア, ウ,	・事例と引用を用いた論の展開を確かめながら主張を捉え、知性の意義につ	<p><第1時></p> <p>1 四つの意味段落で述べられている筆者の考えと、具体的な事例や引用に注意しながら、本文を通読する。(手引き1)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするため
---	--	------------------------------------	--	---

<p>思考への扉 4 アポリア</p> <p>P 232</p> <p>P 254 5 時間</p>	<p>キ ④ 読むこと(2) イ</p> <p>[知技] (1)イ [思判表] 読むこと(1)カ</p>	<p>いて自分の考えを深める。</p> <p>・書かれている内容を理解し、「社会の壊れるとき」を読み深める。</p>	<p>2 抽象的な言葉や指示語の意味内容を理解して、筆者の考えを読み取る。(手引き 2・3)</p> <p><第 2 時></p> <p>1 文化の崩壊と「近代性」の関連についての筆者の考えを読み取る。(手引き 4)</p> <p><第 3 時></p> <p>1 「近代性」という信仰と「摩擦」の維持についての筆者の考えを読み取る。(手引き 5・6)</p> <p><第 4 時></p> <p>1 筆者の考える「知性的ということ」について読み取り、まとめる。(手引き 7)</p> <p>2 「アポリア」を読み、逆説的であり解決困難な状況を示す「アポリア」について理解し、現代社会の諸問題の考察との関連を捉える。(思考への扉 4 アポリア)</p> <p><第 5 時></p> <p>1 「平和のためには『摩擦』はなくすべきである。」という主張に対し、筆者の立場から反論を行う。(論理の力)</p> <p>2 「知性的」であることが求められる、現代の社会問題について話し合う。(言語活動)</p>	<p>に必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。</p> <p>[思判表]</p> <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。</p> <p>・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。</p> <p>・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。</p> <p>・「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>[主] 粘り強く具体例や引用と筆者の主張の関係を捉えて論理展開を理解し、学習課題に沿って社会の現状と結び付けて、「知性的」であることの必要性を、具体例を挙げながら述べようとしている。</p>
<p>読む 虚実の間に</p> <p>P 241</p> <p>[参考] 徒然草・虚実皮膜論</p>	<p>[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読むこと(1)ア, オ</p> <p>[知技] (1)ア [思判表] 読む</p>	<p>・論の展開とキーワードに注意して主張を捉え、情報技術がもたらす社会への影響について考えを深める。</p>	<p><第 1 時></p> <p>1 筆者が具体的に示している情報技術の発達と文章作成の関係の変化に注意しながら、本文を通読する。(手引き 1)</p> <p>2 本文について、「情報の問い」「意味の問い」「論証の問い」を意識しながら質問を考える。(「論理の力」)</p> <p>3 本文冒頭とつながる「徒然草」(P252)を読み、その趣旨をつかむ。([参考] 徒然草)</p> <p><第 2 時></p>	<p>[知技]</p> <p>・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。</p> <p>・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。</p> <p>[思判表]</p>

<p>P 252 5 時間</p>	<p>こと(1)ア, オ</p>		<p>1 前時の「徒然草」の内容を参照しながら、「事」と「心」の関係性を捉える。 2 「分業」が存在する理由と効用を人間の特性と関連させながら読み取る。(手引き 2)</p> <p><第 3 時></p> <p>1 文章作成の様式について、タイプライターまでと、ワードプロセッサ以降の違いを比較してまとめる。(手引き 3) 2 初期の文章作成の様式における、人手や手間の「コスト」の高さが果たした役割を読み取る。(手引き 4)</p> <p><第 4 時></p> <p>1 「従来型のフィクション」の書き手と、「トゥルースを偽装する」フィクションの書き手との違いを読み取り、まとめる。(手引き 5) 2 「虚実皮膜論」(P 253)を読み、趣旨をつかむ。([参考] 虚実皮膜論)</p> <p><第 5 時></p> <p>1 前時の「虚実皮膜論」の内容を参照しながら、「トゥルースとフェイクの間に生まれて、両者の橋渡し役」や「壁の役割」を果たすフィクションの意味を捉えて、まとめる。(手引き 6)</p>	<p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握している。 ・「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。 [主]積極的に二項対立による論理展開から筆者の主張を理解し、今までの学習を生かして情報技術がもたらした功罪について、身近な SNS などの問題を踏まえながら、考察を深めようとしている。</p>
<p>Ⅱ部 6 自己と社会 (2～3月)</p>				
<p>読む サッカーにおける「資本主義の精神」 P 256 思考への扉 5 刺激的考察</p>	<p>[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読む こと(1)ア, ウ, エ [知技] (1)イ [思判表] 読む</p>	<p>・筆者の述べるサッカーと資本主義の関係について理解し、社会に対する見方を広げる。 ・書かれている内容を理解し、「サッカー</p>	<p><第 1 時></p> <p>1 サッカーや野球, バasketボールなどのスポーツがいつ頃どのように成立したか, 知っていることを発表したり, 推測したりする。 2 社会学についての予備知識をもとに, スポーツを社会的に論じるとはどういうことかを考える。 3 筆者が冒頭で提起している疑問にどのように答えていくのかに注意しながら, 本文を通読する。(手引き</p>	<p>[知技]</p> <p>・言葉には, 言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。</p>

<p>P 282 5 時間</p>	<p>こと(1)カ</p>	<p>一における『資本主義の精神』を読み深める。</p>	<p>1) 4 五段構成のつながりをつかむ。</p> <p><第2時></p> <p>1 第一段を通読し、アメリカ人だけがサッカーを退屈だと感ずるのはなぜか、という筆者の問題提起がなされていることをつかむ。</p> <p>2 第二段を通読し、オフサイドのルールの特異性について理解し、筆者の問題提起がオフサイドに絞られていく展開をつかむ。</p> <p><第3時></p> <p>1 第三段を通読し、サッカーの歴史とオフサイド・ルールの成立の関係をつかむ。</p> <p>2 スポーツと社会の在り方がどのように関係しているかを考え、前近代から近代という時代の移り変わりについてつかむ。</p> <p>3 第四段の導入部分を読み、サッカーが「終末論的に構成されている」ということを確認する。(手引き 2-1)</p> <p>4 第四段の残りを通読し、「終わりの複雑化」と「事後の視点」の意味を理解する。また、「二つの視点の組み合わせ」と資本主義の関係、近代的サッカーと資本主義の精神の関係をつかむ。(手引き 2-2)</p> <p><第4時></p> <p>1 第五段の前半部分を読み、「終わりの事実上の無限化」の意味を考え、冒頭の筆者の疑問に対する答えをつかむ。(手引き 3)</p> <p>2 第五段の後半部分を読み、資本主義の展開と終わりの消耗の関係を考え、サッカー・バスケットボールと資本主義の関係について筆者が述べようとしていることをつかむ。(手引き 2-3・4)</p> <p><第5時></p> <p>1 「刺激的考察」を読み、本文について改めてその論拠</p>	<p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握している。 ・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。 <p>[主] 粘り強く「オフサイドのルールがない」という現象から導き出す本質と、ボールゲームのゴールの数と資本主義の投資の反復との類推の関係から、筆者の主張を捉え、学習の見通しをもって主張の論拠を批判的に考察し、自己の社会学的視点を深めようとしている。</p>
-----------------------	---------------	------------------------------	---	---

			を考察し、批判的に検討する。(思考への扉5 刺激的考察) 2本文について「論証の問い」を立て、論証の説得力について検討する。(論理の力)	
読む 抗争する人間 P272 3時間	[知技] (1)ア, イ, ウ [思判表] 読む こと(1)ア, ウ	・人間の社会性と倫理観についての筆者の考察を理解し、人間に対する理解を深める。	<p><第1時></p> <p>1「暴力」やいじめ、争いなどがなぜ起きてしまうのか、自分なりに考える。</p> <p>2「暴力」「自己尊厳」「虚栄心」という言葉に注意して、本文を通読する。(手引き1)</p> <p>3第一段を通読し、「なぜ人間は、…暴力的になるのであろうか。」という問いに対する筆者の考えを読み取り整理する。</p> <p>4「社会的欲望」の特徴を理解し、「肉体的欲望」との違い、「欲望」と「満足」の関係を把握する。</p> <p><第2時></p> <p>1第二段を通読し、「上下左右の方向で、絶えず他人の視線を気にして、他人に向かって自分の価値を承認するように要求し続ける」虚栄心の働きを理解する。(手引き2・3-1)</p> <p>2他人に優越しようとする意識が、他人に対する「排除と差別」へとつながっていく仕組みを理解する。</p> <p><第3時></p> <p>1第三段を通読し、筆者が述べる「倫理的態度」や「対他関係」について理解する。(手引き3-2・4)</p> <p>2「虚栄心」という言葉は、どのように言い換えられているか、順を追って確認する。(手引き5)</p> <p>3「虚栄心」が生まれる理由についての論証を、根拠と導出の適切さに注意し、まとめる。(論理の力)</p> <p>4筆者の主張を踏まえ、他者とどのような関係を築いていくことが望ましいか、話し合う。(言語活動)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握している。 「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 <p>[主]進んで人間の社会的欲望と倫理的努力に対する筆者の主張を読み取り、学習課題に沿って他者との関係性の構築について、自分の考えを述べようとしている。</p>